

提出日:2021年2月7日

公益財団法人 海外子女教育振興財団

AG5 事務局 宛

## 2021 年度 AG5 報告書

|  |          |
|--|----------|
| <b>1. 報告者</b>  |          |
| (1)学校名   | ダラス補習授業校 |
| (2)氏名  | 佐藤 恵美    |
| <b>2. 実施体制</b>   |          |
| ・ダラス AG5 事務局 浅野洋通校長、渡邊肇教頭、ウイロビー由紀子事務局長<br>・連絡調整 佐藤 恵美<br>・小1 授業者 森田 昌代<br>・小2 授業者 上笹貫 陽子<br>・小4 授業者 バーバー 悦子<br>・小6 授業者 佐藤 恵美   |          |
| <b>3. テーマ</b>  |          |
| ・補習授業校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発とそのため<br>の教員研修のプログラム開発   |          |
| <b>4. 目的と概要</b>  |          |
| 研究テーマ④:補習授業校における日本語能力向上のための総合的なプログラム開発<br>・力のある子どもをさらに伸ばすという視点も加え、状況の異なる補習授業校での学習活動計画を作成する。<br>・成果を伝えるワークショップを開催する。<br>・多くの参加者に対応できるように、さらに充実した初任者研修会を実施する。<br>・情報交換会を継続して、関係者間の連携を強化する。<br>・引き続き Facebook での発信、交流を進める。<br>・AG5 の活動に関わる補習授業校の数を増やし、AG5 後にも活動が続いていくような仕組みを構築する。   |          |
| <b>5. 今年度実施した取組み</b>   |          |
| 〈2021 年〉<br>6 月 18 日 AG5 補習授業校教員初任者研修会 #1「補習授業校における授業づくりの考え方」<br>7 月 21 日 AG5 補習授業校教員初任者研修会 #2「授業スキルアップのコツ」<br>8 月 27 日 学習活動計画検討会:ダラス小1国語<br>9 月 11 日・18 日 授業実践:ダラス小1国語<br>9 月 22 日 AG5 補習授業校教員初任者研修会 #3「授業実践～教え方の工夫(模擬授業)」<br>9 月 30 日 授業研究会:ダラス小1<br>10 月 17 日 学習活動計画検討会:ダラス小2国語<br>11 月 13 日・20 日、12 月 4 日 授業実践:ダラス小2国語<br>11 月 17 日 学習活動計画検討会:ダラス小6社会<br>11 月 20 日 学習活動計画検討会:ダラス小4国語<br>11 月 2 日、12 月 4 日・11 日・18 日 授業実践:ダラス小6社会<br>11 月 22 日 AG5 補習授業校教員初任者研修会 #4「グループディスカッション1」<br>12 月 4 日・11 日・18 日 授業実践 ダラス小4国語<br>12 月 16 日 授業研究会:ダラス小2国語<br>〈2022 年〉<br>1 月 9 日 授業研究会:ダラス小4国語<br>1 月 12 日 授業研究会:ダラス小6社会 |          |

1月21日 AG5 補習授業校教員初任者研修会#5「すべての子どもたちの日本語力向上を目指して」

2月6日 AG5 補習校チーム報告会

2月22日 AG5 補習授業校教員初任者研修会#6「グループディスカッション 2」

## 6. 今年度の成果・効果

※作成した学習活動計画や研究会・研修会の実施報告を WEB 上に公開済み。

### ◆ダラス小1 国語「やくそく」

- ・通常の音読発表会ではなく、「紙芝居」形式の発表会にしたことで、普段であれば音読に苦手意識を持っている子ども達でさえも、意欲的に取り組むことができた。
- ・「クラスの友だちに紙芝居を読んで聞かせたい」という「具体的に相手を意識」することで、音読をする時に以前よりも感情を込めて読むことができていた。
- ・子ども達が主体的に音読活動に取り組めたため、場面に応じて登場人物の気持ちを想像しながら、「なり切って読む」スタイルも経験することができた。

### ◆ダラス小2 国語「お話の作者になろう」

- ・1 時限目の事前準備として、「言葉調べ」ワークシートに家庭学習として取り組んだため、本文を読み始める時には、物語文の学習に必要な語彙がしっかりと理解できていた。
- ・「始め、中、終わり」の構成を学習するために既習の物語文を用いた。子ども達にとって馴染みの深い物語を思い出すことで、より理解がしやすくなった。そして、三段階構成で創作物語を書くことができていた。
- ・日本語力に課題のある子ども達でも、「自由に想像をして物語を創作し、出来上がった作品を家族へのプレゼントしよう！」と明確な目標をもち、楽しく活動に取り組むことができていた。

### ◆ダラス小4 国語「初雪のふる日」

- ・ファンタジー物語の構造を理解するために、「現実世界から異世界への入り口」と「異世界から現実世界へ戻るための出口」を探す課題に取り組むことで、子ども達自らが楽しみながら、主体的にその構造を理解することができていた。
- ・教科書の物語文だけに留まるのではなく、そこを飛び出し、図書室から借りてきた本などで、他のファンタジー物語や類似の物語にも触れることができた。こうして、子ども達は「目的を持って読む」という、新しい読み方を経験することができた。
- ・創作物語の発表会では、「異世界への入り口」と「異世界からの出口」が含まれた友達のファンタジー物語に興味を持ちながら、楽しく読み合うことができた。この活動を通して、子ども同士の相互理解が深まった。

### ◆ダラス小6 社会「世界の未来と日本の役割」

- ・映像資料を活用することで、日本語で読むことが難しい子ども達でも、理解がしやすい場面を多く作ることが可能となった。
- ・重要語句の短冊を用意し、図式化された板書になるように工夫した。色分けされた短冊を板書に組み込むことで、学習内容が子ども達にとって視覚的に分かりやすくなり、補習校での早いスピードの授業の内容理解の手助けとなった。
- ・ダラス補習校に縁のある方々のゲストスピーチであったため、自分達のロールモデルとして現在と未来の自分を重ね合わせて、興味関心を持って聞くことができていた。この時間が持てたことで、学習課題が自分達にとって、より身近なものとして感じる事ができていた。
- ・ゲストスピーチを聞く際のメモで、「自分の一番得意な言語で書いて良い」としたところ、日本語で書き取ることが困難な子ども達は、得意な英語でスラスラと書いていた。ここでしっかりとメモが取れたことで、その後の「自分の考えをまとめる課題」の時の材料として、ゲストスピーチの内容を生かすことができていた。
- ・意見交流会の進行表があったため、子ども達自らがグループ活動を容易に進めることができていた。
- ・世界中の人々が幸せに暮らせる『未来』をつくるために、今の自分には何が出来るか、これからどんな生き方をしたいか、というテーマに迫り、子ども達は一生懸命に日本語で考え、調べ、表現(発表・意見交換・文章化)することに努力をしていた。
- ・補習授業校には「特別の教科 道徳」はないが、「学校の教育活動全体を通じ…」の観点から本単元を通じ

て、自己を見つめ、道徳性を養う」ことができた。

## 7. まとめ

今年度の AG5 授業開始時(9 月)は、昨年度に引き続き zoom 授業であったが、授業者の先生(小 1)は「オンライン授業でもできること。オンライン授業だからこそできること。」に着目し、前向きに授業実践に取り組んでいた。そこには、「何とかして、子ども達に分かりやすく、楽しい授業にしたい」という教師の熱意がひしひしと感じられた。また、教師自身がこの AG5 授業の授業者として関わられることを非常に楽しみにしていたため、担当して下さった補習校チームの先生、そして子ども達との三者間が上手く融合できたように思う。子ども達のやる気を引き出す、楽しい授業実践となっていた。その後、11 月から 12 月に行われた3つの単元(小 2、小 4、小 6)は、1 年半ぶりに再開された対面授業で行われた。当初は、Zoom 授業のまま授業実践になるかもしれないと思われていたので、これはうれしい授業スタイルの変化であった。しかし、長期に渡るオンライン授業のあとは、まずはクラスとして人間関係の構築や学習規律の定着から行う必要があり、コロナ禍前の対面授業と比べると、子ども達がクラスに馴染み切っていない状態での AG5 授業となった。重ねて、コロナ感染予防対策のためにマスク着用や机上スクリーン使用、ソーシャルディスタンスを保つために、教室での自由な移動は禁止であったりと、子ども達の活動内容や量を制限しなければならない厳しい状況でもあった。幸い 4 名中 3 名の授業者は AG5 授業実践が初めてではなかったため、過去の経験を活かし、「この状況でもできること。この状況に合った実施方法。」を一生懸命に考え、授業活動計画に手を加えながら、できる範囲での最善の授業になるように尽力した。結果、どの単元も最終的に目指していた「単元の目標」に迫ることができ、授業後には、子ども達からも前向きなふり返りが聞かれることとなった。コロナ禍での AG5 授業実践とはなったが、AG55 年目を迎えるダラス補習校としては、全力で取り組むことができた。

## 8. 次年度の計画

## 9. 所感

研究提携校として 5 年に渡り、ダラス補習授業校では 20 以上の単元実践に取り組んできました。1 年目に来校をされた補習校チームの先生方から、アクティブラーニングやデジタル教科書についての講義を受け、「こういう指導法や教材があるのか。」と、衝撃にも似た感覚を持ったことが昨日のこのように思い出されます。最終年度となった今年度は、4 単元に取り組みました。「いつオンライン授業から対面授業に戻れるのだろうか。」「授業活動は、どちらの授業に合わせて書いたら良いだろうか。どういった活動ができるだろうか。」と、授業者の先生方と試行錯誤を重ねながら、授業準備を進めました。先がはっきりと見えない状況でも、AG5 授業者を務めた経験のある先生方は、「なんとかやろう。なんとかしよう。」と、常に前向きな姿勢で取り組むことができました。また、AG5 授業者は今回が初めての先生も、「このような授業実践をさせて頂けることは、とても有難いことで楽しみです。」と、こちらもコロナ禍の厳しい状況であることを忘れさせてくれるような前向きさで、授業実践できました。今年度の授業者の先生方以外でも、授業実践が行われた学年の先生方は、同じ活動計画で指導を行いました。こうして、最終年度もダラス補習校全体で心を合わせ、授業実践に取り組むことができました。

今年度は、他校の先生方による授業実践にも関わることができたことも大きな成果でした。各種の研究会に参加し、他校での授業の様子、児童生徒の実態、先生方の授業に対する取り組み姿勢などを知るたびに、世界中の先生方が、日々、子ども達のために「より良い授業実践をしよう」と奮闘されていることに感銘を受けました。そして、「自分達もその仲間の一部なのだ。がんばろう。」と、同志の先生方の存在に励まされました。

5 年間に渡る AG5 プロジェクトを通し、ダラス補習授業校の枠を越えて、世界中の多くの先生方や子ども達と繋がることができました。この縁が、これからも長く続いていくことを心から願っています。

